

JP 54-63825 A

⑨日本国特許庁(JP)

⑩特許出願公開

⑪公開特許公報 (A)

昭54-63825

⑫Int. Cl.<sup>3</sup>  
G 03 B 21/56

識別記号 ⑬日本分類  
103 D 8

庁内整理番号 ⑭公開 昭和54年(1979)5月23日  
6401-2H

発明の数 2  
審査請求 有

(全 3 頁)

⑮投映スクリーン

35号

⑯出 願 人 菊地東次  
東京都新宿区下落合3丁目12番  
35号

⑰特 願 昭52-129680

⑱出 願 昭52(1977)10月31日

⑲発 明 者 菊地東次  
東京都新宿区下落合3丁目12番

⑳代 理 人 弁理士 鈴木通夫

BEST AVAILABLE COPY

明 細 書

1. 発明の名称

投映スクリーン。

2. 特許請求の範囲

- (1) 垂直方向面は大幅な傾斜をなし、水平方向面は凹形の湾曲面を有する投映スクリーンにおいて、前方に所定角度傾斜させた上記スクリーンの垂直面全体を水平方向に微細的な帯状体に分断し、これを湾曲面上に移動可能とし、かつ投映光源が観覧者の位置に反射集光するように、上記帯状分割体の傾斜角度を連続的に変化させるようにした投映スクリーン。
- (2) 上記分割帯状傾斜面を有するスクリーン面と反対の面を形成した圧縮ロールと直線状の平面を有する膨張ロールによつて無可逆性変形を誘発して湾曲し、湾曲によつて生じたスクリーン面を引き締めてアルミ箔層に反射面となし、これを適宜大に切開し、左右面を凹形の湾曲面とした台板に貼着するようにした上記投映スクリーンの観覧態。

3. 発明の詳細な説明

本発明は、特定の観覧区域内で、その区域外の周辺光の影響を受けないようにした、例えば水平方向に面を付与する凹面球状投映スクリーンの改良に関する。

即ち、投映スクリーン上の反射光を観覧者の方向に集光して、投映像の反射照度が高く、そのため明るい室内においてもスクリーン投映像を快適に観賞することができるようにした凹面球状投映スクリーンは、球の中心を観覧者の位置となるように設計されている。このようなスクリーンにあつては、たとえ映画の観覧者がスクリーンに正対し、下方から投映するような場合には、スクリーンの凹面状の球の中心を観覧者の位置より下方に拘めるように投映像を配設しないと観覧者の位置にスクリーンからの反射光が適切に集光されない。そのため上記球状スクリーンは、その上端を前方に若干傾斜させて一般に使用されている。このような傾斜位置に對し傾斜による空間を解放しようとする。